

『大在支店』新設開店 5月OPEN



けんしんは来る5月18日に38店舗目となる営業店「大在支店」を新設開店致します。新店舗の開設は1996年の「東大分支店」の開店以来24年ぶりとなります。出店する大分市大在地区は大分市の東北部、大野川下流域に位置し、海岸部は臨海工業地帯として発展を続け、丘陵地には住宅団地が造成され若年世帯が増加しています。昨年8月より鶴崎支店内に「大在支店開設準備室」を設置し周知活動をスタートしました。5月20日、21日には新店舗にて新設開店に伴う記念イベントを行う予定です。

■大在支店開店までのお取扱い

大在支店開設準備室
(大分市中鶴崎2丁目3番10号鶴崎支店内)

TEL097-523-0600

■大在支店開店以降のお取扱い

大在支店 (大分市大字角子原908-1)

TEL097-523-0600



愛するまちのために

- 1 特集/TOP INTERVIEW
有限会社 渡辺茶舗
株式会社 東豊開発コンサルタント
株式会社 千咲
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS





渡邊道雄社長(右)と勉さん(中央)、道子さん(左)。皆さん、穏やかにて親しみやすい人柄



左/2階には所狭しと茶道具や古道具が展示され、販売している
下左/ティーパックのパッケージには、家紋の渡邊星をあしらった。福沢通支店の松本支店長のアドバイスもお役に立てたとか
下右/茶葉は静岡と鹿児島から仕入れて自社で製造。看板商品「蓬菜」は1000円と思えないクオリティと喜ばれている



2代目から3代目へ心のバトンを繋ぐ

黒田官兵衛が築いた中津城一帯に、昔の町割りのまま残る江戸時代の城下町。そこから線路を隔てた官公庁街に『渡辺茶舗』は軒を連ねる。その祖先もまた、黒田家以前にこの地域を治めていた宇都宮家の家臣だったという。

そんな逸話がボンと飛び出すほど歴史口マン溢れるまちで、お茶の専門店を始めたのは第二次大戦後、昭和26年のこと。満州に渡っていた創業者がこの地に引き上げてきた後、畑の野菜や茶葉を売る食料品店を開いたのが始まりだった。「祖父方には製茶機が、祖母方は農家で茶畑を持っていたので、やがて食料品店から製茶の販売に移行していったそうです」と話してくれたのは、3代目の勉さん、道子さんご夫婦だ。製茶の技術を極めたのがその父で2代目の道雄さん。茶葉を仕入れて自家焙煎、ブレンドする今のスタイルを確率したのである。「修業時代、お茶は掌(たなごころ)で見るとは教わりました。つまり、手のひらの感触でお茶の良し悪しを見極めると言うことだ」という言葉通り、経験を積むうちに、新茶の頃は良くて秋口に悪くなるもの、逆にいずれ美味しくなるものの判断

がついてきたそうだ。追求してきたのは、お客さまに喜んでもらえる味。「好みは人それぞれで万人に合わせるの難しいのですが、まずは自分が美味しいと思うものを工夫してきました」。そんな道雄さんから最近、製茶を任せられるようになったという勉さん。道雄さんが「真面目」と褒める3代目は、妻の道子さんとともに、お茶離れした世代に向けた新しい商品づくりにも取り組んでいる。

そのひとつが、看板商品『蓬菜』(煎茶)のティーパックタイプ。急須用サイズとひとまわり小さなマグボトル用の2種類あり、すでにほうじ茶、玄米茶も完成している。これは従来のファンからも好評で、「入院中のおばあちゃんが蓬菜を飲みたがっていると言って、お孫さんがティーパックが便利と買いにきてくださったんです」。従来より茶葉を細かくしてあるため茶殻が大きく膨らまず、捨てやすいのも特徴だ。夏に向け、お茶屋ならではの味を叶えたアイスクリームも4月から新発売の予定。ほうじ茶味と抹茶味が味わえるそうだ。

道雄さんが始めたもうひとつの事業、茶道具の販売は道子さんが引き継ぎ、買い付けた茶道具・古道具が2階にもずらり。インターネットショップも展開しており、日本全国、そして世界とも繋がりは始めている。



3代目の勉さんは、お茶への愛も深い。

中津下毛同友会

[小売業]
有限会社 渡辺茶舗
取締役 渡邊 勉 氏

DATA
〒 中津市豊田町6-7
☎ 0979-24-5768
🕒 9:00~18:00
📍 不定 📺 あり
<https://www.rakuten.co.jp/yygayagaya/>

生まれ育ったふるさとの豊かな未来をつくりたい

「日田が好きなんですよね。理由はシンプルに、生まれ育ったまちだから」。目尻を緩めながらそう話す、伊藤良浩社長。父が開業した会社を継ぎ、多種多様な専門分野がある土木の世界でも、特に測量を得意としている。学生の頃は後を継ぐつもりがなかったそうで、土木の道には進みながらも「別の会社に勤めながら父と一緒に仕事ができればと思っていたんです」と当時を振り返る。「好きなことをすればいい」と背中を押してくれた父の言葉もあり、県外で就職。環境調査に関係する渡り鳥の調査や橋梁の調査、最終的にはIT業界に興味を湧きサーバーの運用管理をしたこともあるそうだ。その頃に暮らしていた千葉県で東日本大震災を経験。水や電気やガソリンが絶たれ、インフラの重要性を痛感したという。

「継ぐつもりがなかった」と言いつつも、数年後、父の仕事を手伝うことを決め故郷にUターン。家業に根を下ろした伊藤社長は、日田でも災害と

向き合うことになった。最初は平成24年の九州北部豪雨による水害。測量の要請があり災害現場に駆けつけ、花月川沿いを延々と歩いて計測したという。被害を把握し復旧、そして将来の教訓に繋げる大切な任務だ。さらに、平成29年の豪雨では大規模な土砂崩れが発生し、集落が孤立した小野地区に急行。5年の間に技術が大きく進歩しており、このときはドローンを飛ばし、3Dスキャナで測量をしたという。

土木の世界は技術の進歩が速い。「従来は二次元の図面をつくり頭の中で三次元化していましたが、最新の機器を導入すれば空間全体が写真を見るように把握できます」と話す伊藤社長。最新の機器を導入することで、地域住民の暮らしはもとより、従業員の命もより守れるようになった。

技術の進歩により、働き方も変わっている。「今後10年間で会社のデスクに座ったままドローンを操作し、測量ができる画期的な時代が来るかもしれ



創業は昭和63年。日田を拠点として社会インフラの整備に貢献

ない」と言う。業務にITの技術を柔軟かつ積極的に取り入れる先駆的な企業として、業界を牽引する日々。大分県測量設計コンサルタント協会の理事も務めている。その背景には、自社がひとり勝ちするのではなく「業界全体が潤い、地元経済に貢献できれば」という気持ちが込められている。異業種の仲間たちと集う「たのもし」という会で娯楽イベントも企画。いつも心にあるのは、「日田のまちが良くなるように」という思い。「安心して暮らせる豊かなまちをつくるため、貢献していきたい」と日田への愛が溢れた。



測量作業の様子。さまざまな業務に最新機器を導入しているが、人の手も外せない



ドローンで解析した三次元データに道路計画を合成した図



最先端技術を搭載したレーザードローンの機体

久大同友会

[測量・設計業]
株式会社 東豊開発コンサルタント
代表取締役 伊藤 良浩 氏

DATA
〒 日田市吹上町10-25
☎ 0973-23-1289
🕒 8:00~17:00
📍 土・日曜、祝日 📺 あり
<https://www.tkc-toho.co.jp>



日田の話になると自然と笑顔がこぼれる伊藤社長

五感を賑わす豊かな時間が 杵築の魅力となるように

長年、観光業に縁の深い矢野公一社長。三光タクシーの経営者として、また青年会議所のメンバーとして、生まれ育った杵築のまちづくりに携わってきた。しかしその間ずっと、あることについて考えていたという。

「もっと杵築のまちに相応しいまちおこしの手法はないだろうか？」

そんなある日、知人の紹介で出会ったのが大衆演劇の世界だった。旅芝居の劇団が繰り広げる、笑い涙、そして義理人情に満ちたステージ。そのとき矢野社長は、劇そのものはもちろん、観客の反応にも注目したそうだ。気になったのは、妻に付き添ってきた年配の男性たち。「最初は大したことなくという雰囲気だった男性たちが、芝居が真に迫ってくると前のめりになってきて。最後は一緒に泣いたり笑ったりしているのを目の当たりにしたんです。これだ！と思いました」。大事なものは

五感を賑わすもの、そしてハートに残るものであること。舞踊ショーと時代物の人情劇からなる大衆演劇は、江戸時代の趣が宿る杵築の城下町にもマッチする。平成21年、大正時代の酒蔵を改装した「きつき衆楽観」をオープンさせ、エンターテインメント事業に乗り出したのである。

きつき衆楽観では、ほぼ毎日公演を行っている。舞台はミニ舞踊ショーと芝居、そして本舞踊ショーの3部構成からなるめくるめく3時間。魅力は、役者が目の前に迫る客席と舞台の近さである。月替わりで違う劇団を招致しているほか、県内の福祉施設などに出向出張公演にも対応。自ら足を運べない人々の元へ、豊かな時間を届けている。そんな中、印象的な出来事があった。ある施設を訪れた際、役者が歌う「無法松の一生」を聴いて、90歳を超えた男性が涙を流していた。その人は



杵築のご当地スイーツとして有名な「臥牛ソフトクリーム」は地元の紅茶味。臥牛城とも呼ばれた杵築城にちなんだ名前

翌日、天国へ旅立った。「後日ご家族がお礼に来てくださり『大好きな曲だったんです。思い残すことなく天国に旅立ちました』とおっしゃって。その言葉を聞いて、私たちの事業を続ける意義の深さを痛感しました。役者共々これからも頑張らなければなりません」。

城下町散策と観劇をセットで楽しんでほしいという矢野社長。ファンには高齢者が多いが、若い世代でも十分に楽しめる。また、杵築を盛り上げるため、七節句を大切にしているイベントを企画したいというさらなる夢もある。「このまちに来てよかったと思っただけのことを今後もプロデュースしていきたいですね」と語るその目に、情熱が宿っていた。

まちおこしへの思いを熱く語りつづけた矢野社長



杵築市役所の斜め向かい。国の伝統的建造物群保存地区に指定された城下町にある、きつき衆楽観



臨場感たっぷりの舞台が楽しめるホール。友の会に入ると(入金金500円)入場料が1400円に。さらに、10回観ると1回無料になる



館内では杵築の特産品や雑貨の販売、食事も可能。まさに五感で味わい尽くせる

杵築同友会

[娯楽業]

株式会社 千咲

代表取締役 矢野 公一氏

DATA

〒 杵築市杵築398-1

☎ 0978-66-1112

🕒 9:30~16:30、公演は13:00~16:00

📅 毎月最終日、不定休あり※要問い合わせ

📍あり <http://shuurakukan.com>



フォーユーホーム 株式会社
代表取締役 長田 雅彦さん(中央)



自由設計が基本。デザイン
ハウスハウスも手がける

DATA

[住宅建築業]

フォーユーホーム 株式会社

〒 中津市下池永101-5

☎ 0979-22-3885

🕒 9:00~18:00

📍水曜

📍あり

<https://foryou-h.com>

キラリ 新風力 New Wind & Fresh Power ふわり 爽風力

地元を根を張りモノづくりを楽しむ

江藤健司さんは、県内に数少ない革製品の職人。小物を中心に製造・販売を手がけている。工房と店舗を構えるのは玖珠ICから車で約5分の国道210号沿い。今から17年前、颯爽とハーレーを乗りこなすようなライダーたちをターゲットにオープンした。

小さなまちを商圏とすることに不安はなかったのか？ そう尋ねると「若い頃は勢いがあり、やりたいことに向かっていた。このまちで店を開くことに不安はなく、むしろ生まれた地域でやっていきたかったんです」と笑顔をのぞかせた。その姿勢が顧客を呼び、現在はしっかりと地域に根を張っている。「近所の奥さまもカバンの修理を頼んでくれます」というエピソードがそれ

を物語っている。10年ほど前から服や雑貨も店頭で並べるようになり、若者の拠り所ともなっている。

オリジナルブランド「Guilty Flame」のアイテムは、流行にとらわれない個性的なデザインが特徴。素材に採用している上質なヨーロッパの革は発色が良く、日々のファッションをランクアップさせてくれる。バスケットウォレットなど定番ラインのほか、オーダーメイドにも対応しており、贈り物のニーズも多いとか。加えて、地元企業とのコラボレーションも楽しんでおり、ホンダカーズ玖珠のノベルティとしてキーホルダーもデザインした。「一つとして同じものはないんです。終わりが無いのがモノづくりの面白いところですね」と語る江藤さん。プロならではの美しい仕上がり、そしてスピーディーな仕事を心がけながら、これからも探求心を忘れない。



有限会社 STOKED
取締役 江藤 健司さん



DATA

[革製品製造・小売業]

Guilty Leather Factory

〒 玖珠郡玖珠町塚脇260 石田ビル1F

☎ 0973-72-2870 🕒 10:00~19:00

📍水曜 📍あり <http://guilty-lf.jp>

Instagram [guiltyleatherfactory](https://www.instagram.com/guiltyleatherfactory)

商品はウエブショップからも購入可能。SNSでも情報発信している

飲食業

レストランろくめいかん

一目八景の絶景を望む 手打ちそばの名店



春には「ざる」でいただきたい「手打ちそば」と「自然薯てんぷら」

耶馬溪観光に欠かせない食事どころといえは
こちら。11月半ばから、燃えるような紅葉を愛
でられる一目八景に面しており、食事をしながら
その絶景を望むことができる。名物は、地元
耶馬溪のそば粉からつくる手打ちそば。自然薯
をたっぷりかけた「山かけそば」がおすすめ。
しいたけのダンがよくりいた汁も評判。粘り
気の強い自然薯だからできる「自然薯のてんぷ
ら」も、ここならではの味である。紅葉の季節が
特に有名な耶馬溪だが、新緑の季節もまた風光
明媚で、店では山菜料理や川魚もおいしい季節
となる。オープンしてから約半世紀。現在は2代
目が店を受け継いでおり、家族経営ならではの
温かな雰囲気も魅力のひとつとなっている。お
土産には「しいたけのからし漬」をぜひ。旨味に
絡むツンとした辛さがやみつきになるはず。



〒 中津市耶馬溪町深耶馬
3152-2
☎ 0979-55-2027
🕒 9:00~17:00
🚗 不定 📍あり



飲食業

有限会社 木戸屋

地域の拠り所となるべく 丼1杯に愛情を込める



さまざまな客層に人気の「天ぷら御膳」。
湯布院に立ち寄る際はぜひご賞味を

湯の坪街道と平行した県道沿いで、『田舎庵』
の看板を掲げうどん屋を昭和44年から営ん
でいる。開業当時は大衆食堂で、まだ湯布院に
も旅館や飲食店が少なかった時代、地域の人々
のたまり場として愛されていたそう。その歴史
は2代目の浩久さん、3代目の宏輔さんが店
に立つ今に受け継がれており、いつも多くの
人で賑わっている。名物は、丼の外周と同じく
大きい天ぷらが入った「ごぼ天うどん」。外国
人観光客にも「ゴボテン」と親しまれており、
また鶏飯にちょっとしたおかずが添えられたセ
ットは子どもと分け合って食べる親子も多いと
か。味はもちろん、家族や仲間とゆっくり寛げる
雰囲気も人気の秘密だ。浩久さん、宏輔さん
ともに商工会や青年団でも活躍中。「これからも
地域の人の拠り所になれば」と話してくれた。



〒 由布市湯布院町川上1071-3
☎ 0977-84-3266
🕒 11:00~15:00
🚗 木曜※祝日の場合は営業、不定休あり 📍あり



運送業

中津ダイキョー運輸株式会社

トラックに乗せて人々の夢まで届ける

久留米運送の営業所から、現会長が平成11年に独立。当時からその右腕となり運営を支えてきた佐藤和久社長が経営を引き継ぎ、6年目になる。久留米運送からの委託業務を中心に中津、宇佐、豊後高田、豊前エリアと全国の流通を結び日々。従業員は約50名で、働き盛りの運転手も多く、関東、関西、名古屋まで運行するなど守備範囲は広い。積荷も食品から衣料品、自動車部品まで多種多様で、顧客は企業がメインだ。「運んでいるのは荷物ですが、それを手がけた企業さんの夢も運んでいると思っています」と、佐藤社長。そんなやりがいのある仕事に「元気の若者を採用したい」と多くの人材を求めている昨今。20~60代まで幅広い年齢の方が活躍する同社では、未経験者でもベテランがきめ細かく指導できるのが強み。女性も大歓迎だという。

本社営業所のほか倉庫事業も手がける「区域事業部」も売上を伸ばしている



〒 中津市犬丸1685
☎ 0979-32-2131
🕒 8:00~17:00
🚗 日曜、祝日 📍あり



卸・小売業

有限会社 高木商店

米問屋として約120年 その歴史を次世代に繋げたい



杵築城にも近い、動定場の坂を下りたところに店を構える

武家屋敷群と商店が石畳の階段で繋がる杵築の城下町。その一角に瓦屋根の長屋を見つけたら、それが「高木商店」だ。創業は明治35年。初代はお殿様とも縁があったらしく、城の一部を移築した建物だと言われている。米屋としての歴史を営み続けて約120年。現在は高木久美子社長がトップに立ち、米の集荷から卸売販売までを手がけている。仕入れているのは山香や大田を含む地元杵築産の米。豊かな香りもちょっとした食感が自慢だ。顧客は杵築市周辺の飲食店や病院、福祉施設などで、代々の取引が続いている先も多い。長年の付き合いが多いのは、「人を信じ、信用されることをモットーとしているから」と高木社長。数年前に他界したご主人の後継として、息子さんたち家族や従業員とともに暖簾を守り続ける。



〒 杵築市杵築126
☎ 0978-62-2039
🕒 8:00~17:00
🚗 日曜 📍なし



製造・販売業
就労支援者作業場

合同会社 由布のしいたけ

しいたけの生産・販売に新規参入 全国に誇る品質



独特の香りは控えめながら旨味の強い「由布のしいたけ」

3年前から大分県特産のしいたけ栽培に着
手。障がい者の雇用を積極的に行うため、周年
出荷が可能な菌床を選択し、生産から出荷まで
の工程を就労継続支援A型事業所「由布の麓」
(NPO法人リプル)に業務委託している。「由布
の麓」のあり方を模索する中、自社で立ち上げ
たのが「由布のしいたけ」だ。幸運にも汲み上
げた地下水が由布山麓の混じりつけない清水
だったこと。国産の菌床を採用し、通常は省か
れる細かな作業まで丁寧に行うことで唯一無
二の品質を実現。創業から2年目にして、サンマ
ッシュ協議会の大会で全国3位に輝いた。現在は
地元の旅館、飲食店への小売と全国に向けた出
荷が主だが、購入の相談には個別に応じてくれる。
個人客向けのお中元・お歳暮など贈答対応
も可能だ。



〒 由布市湯布院町川上木床
2245-2
☎ 0977-75-8457
🕒 8:30~17:30
🚗 不定 📍あり



自動車整備業

株式会社 宇野モータース

感謝の気持ちを込めて きめ細やかなサービスを提供



国道10号沿いに掲げた看板が目印

戦前に自転車屋として創業。時代の波に乗っ
てオートバイ、そして車へと移行し、現在は車両
の点検・販売を主に行っている。昭和44年から
現在地の国道10号沿いに拠点を移し、地元
の人々から親しまれるとともに、行き交う車の緊
急時にも対応してきた。「今日まで続けて来られ
たのも長年のお客さまのおかげ。今後は感謝の
気持ちをサービスで返していきたい」と語るの
は、3代目の宇野文章社長だ。長く安全に車に
乗り続けてもらえるよう、愛情を込めたメンテ
ナンスに余念がない。「悪いところが出てくる前
に提案していくことを心がけています」。昨今
では保険の取り扱い、ドライブレコーダー設置の
需要も増えているという。また、山香グリーン
ツーリズム研究会の事務局としての顔も持ち、
移住促進やまちの振興にも力を入れている。



〒 杵築市山香町倉成130-2
☎ 0977-75-0256
🕒 8:30~17:30
🚗 日曜、祝日、第2土曜 📍あり

